

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (津西高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志と広い視野を持ち、社会をリードする人材を育成する学校 ○ これからの社会を生き、未来を切り拓いていくのに必要な資質、能力を培う学校 ○ 確かな学力と豊かな人間性を育み、進路希望を実現する文武両道の進学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習や特別活動、部活動に意欲的に取り組み、社会で生きるのに必要な力とそれを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒 ○ 高い志を持って主体的に考え、行動するとともに、互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことのできる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像実現のために組織的に取り組み、生徒とともに成長しつづける教職員 ○ 生徒一人ひとりの可能性を引き出し、生きる力の育成と進路実現のためにサポートを惜しまない教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>《生徒》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力の向上と学校生活の充実、進路希望の実現 <p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安心・安全で充実した学校生活と学力の向上、進路希望の実現 <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域をリードする人材の育成とそれによる地域の活性化 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校や生徒の状況、選抜情報などの情報提供 <p>《進学先》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力と主体的に学ぶ力 <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人材育成と地域貢献 	<p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の養成と高校生活への意欲 <p>《進学先》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己実現のための連携と情報提供 <p>《地域》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動への理解と支援
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 津西高校の特色を地域の方や小中学生に理解していただく必要がある。そのためには、地域との連携や小中学校との交流をより一層充実して欲しい。地域の目標となる学校として、小学生たちの見本となるべきマナーを身に付けるよう指導して欲しい。 ○ 「地域をテーマとした課題研究」「人権総合学習・人権探究活動」などについては、地域の人と触れあいつつ学習を進めることで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の育成のための大切な学習の機会になっている。また、地域のリーダー育成を目標とする津西高校にとって意義深いものとなっているので、取組を継続して欲しい。 ○ ICTを活用した授業づくりについては研修会などにより教員のスキルアップに努め、効果的な活用を進めて欲しい。また、ICT活用で業務の効率化を図って欲しい。 ○ 時間外勤務時間の縮減については引き続き取り組んで欲しい。教職員の専門性が不要な業務については削減したりSSS（スクールサポートスタッフ）の力を借りたりするなどの対応を進めて欲しい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の多くが勉強と部活動の両立に努めるなど、充実した学校生活を送っている。素直で真面目な生徒が多く、熱心で懇切丁寧な学習指導、進路指導の結果、多数の生徒が国公立大学に進学するなど進路実現を果たしている。 ○ 確かな学力を身につけ、高い志と広い視野を持ち、主体的に考え、行動する生徒を育成し、難関大学に合格できるよう生徒の可能性を引き出すことが求められる。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員は生徒一人ひとりの学力向上や豊かな人間性の育成のために、教科指導や進路指導、部活指導をはじめ様々な教育活動に前向きに取り組んでおり、それが生徒の進路実現や地域、中学校の評価につながっている。 ○ 新しい学力観を視野に入れた高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための組織的取組とシステム構築が課題である。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志と広い視野を持ち、社会で活躍する人材の育成、難関大学合格のための学力向上のために、生徒の可能性を引き出す計画的な教育活動や取組を推進する。 ○ 主体的・対話的で深い学びや探究活動を通して、確かな学力と社会で生きる力（主体性、協働性、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力など）を育成する取組を充実する。 ○ 命を大切に教育に取り組み、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力を育むための体制づくりやICT機器を活用した授業改善に向けて組織的に取り組む。 ○ 教職員が健康で意欲的に働くことができるよう総勤務時間の縮減に取り組む。 ○ 教員一人ひとりが自己の使命と職責の重大さを認識するとともに、コンプライアンス意識の向上に向け取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
高い志と社会で生きる力を持った生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志と広い視野を持った生徒を育成するため、大学、地域等と連携して以下の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ① 地域をテーマとした課題研究 ② 津西SPP(サイエンスパートナーシッププログラム) ③ 津西グローバルチャレンジプロジェクト <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域をテーマとした課題研究」を始めとする探究活動に計画的に取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」の取組に対する生徒の満足度80%以上 <p>※ 開始時からレベルが1P以上上がったと感じている生徒の割合</p>	<p>①1年生、2年生の総合的な探究の時間やLHRにおいて、探究活動に系統性を持たせることで、取組の充実を図った。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症により、活動内容に制約があったため、学校内で可能な範囲で実施した。</p> <p>③実施できなかった。</p> <p>・ 84.1% (達成)</p>	◎

	<p>○ 難関大学合格のための学力の向上や進路指導のために、学校全体で上位者を育成するための学習指導、進路指導に取り組む。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大150名以上、難関大学20名以上、東大・京大1名以上の合格(過年度卒業生を含む)。 <p>○ 校門指導等により、遅刻の防止や挨拶の励行を徹底する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻数前年度比 10%減 	<p>国公立大学 155名 難関大学 20名 京大 2名 (達成)</p> <p>・ 24%増加 (未達成)</p>	
命を大切にす る教育の推進	<p>○ 授業、特別活動など、すべての教育活動を通して一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進し、自己肯定感を高める。</p> <p>○ 「命を大切にす教育」という観点で人権教育、特別支援教育、道徳教育に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びや探究活動を推進し、自己肯定感を高める。 ② 生徒理解と情報共有のためすべての新入生の出身中学を訪問する。 ③ 特別な支援を要する生徒についてケース会議を実施し、その内容を全教職員で共有するなど、特別支援教育に学校全体で取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活に対する満足度 90%以上 <p>○ 交通事故の防止や自転車の運転マナーなどの交通安全教育を推進する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故件数 0件 	<p>①「人権総合学習」に探究活動を取り入れ学習の深化を図った。</p> <p>②県内全ての出身中学校を訪問した。(コロナの関係で一部電話での聞き取りあり)</p> <p>③特別支援教育推進委員会を中心に、特別な支援を擁する生徒等について情報共有や支援員との連携を行った。</p> <p>・「満足」87%(未達成) (R2 83.5%、R元 82.9%)</p> <p>・8件(未達成)</p>	◎

改善課題

・遅刻者数の増加については、新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大が、安心して学校に通える状況の維持や規則正しい学校生活の維持に大きな影響を与えていると考えられる。次年度も同じ状況が続くと思われるので、引き続き学習手帳や面談をとおして生徒の精神面の支援にあたりたい。

・生徒に将来へのビジョンを持たせることで、学習意欲の向上や高い志を育むことが重要である。学校全体で総合的な探究の時間の充実を図り、より効果的なものにしていく必要がある。

(2) 学校運営等

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力、授業力の向上のための組織的取組	<p>○ 高大接続改革に象徴される、これから求められる学力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを進める。本校が育成する学力を明確にし、それを全教職員が共有した上で授業研究に取り組む。</p>		◎

	<p>【活動指標】</p> <p>① 全教職員が互見授業を実施する(1回／年以上)。 ② 高大接続改革に対応した作問を行う(1問／実力テスト1回)。 ③ 「授業アンケート」の実施(2回以上／年)</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力が向上したと実感した生徒 85%以上 <p>○ 組織的で計画的な学力向上のための取組、進路指導を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 主任会の実施(3回／年以上) ② 進路研修会の実施(4回／年以上) ③ 国際科学科運営委員会、学力検討会議の実施(4回／年以上)</p> <p>○ ICT機器の効果的な活用方法を検討するとともに、教員のスキルアップ研修に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津西デジタル化戦略会議の実施(5回／年以上) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PCや電子黒板機能付きプロジェクタなどのICT機器を活用して授業を行った教員 100% 	<p>①互見授業の期間を長くし、ICTを活用した授業実践をこの期間に組み込むことで効果を高めた。 ②より思考力を問う作問を行った。 ③生徒・保護者アンケート実施(コロナ禍のため春は中止し、秋に1回実施) ・79.8% (未達成) (R2 76.4%、R元 71.6%)</p> <p>①主任会として実施せず、随時課題に応じて実施 ②4回実施 ③5回実施 (運営委2回、学力3回)</p> <p>・7回実施</p> <p>・100%(達成)</p>	
働きやすい 職場環境づくり	<p>○ 教職員の総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 定時退校日の設定。(1回／月)(定時に退校した職員 80%以上) ② 部活動休養日の設定。(1回／週)(休養日を設定した部活動100%) ③ 会議時間の短縮。(60分以内に終了した職員会議、各委員会80%以上)</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 時間外労働時間の削減(5時間／月減) ② 教員の時間外労働の「上限時間」の遵守 ③ 休暇取得の増加(1人当たり2日／年増)</p>	<p>①1回/月実施。(84.0%) (R2 76.0%、R元 61.6%) ②1回/週設定。(100%) (R2、R元 100%) ③80.3% (R2 72.4%、R元 76.8%)</p> <p>① 20.9h (R2 17.8h) ② 月45時間超 11名(5回以上) 年間360時間超 24名 ③ 19.14日 (R2 19.32日)(未達成)</p>	◎
コンプライアンス 意識の向上の ための取組	<p>○ 教員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上に取り組む</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校信頼向上委員会」の実施 (3回／年 以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5回 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度入学生の一人一台端末の導入に向けて、津西デジタル化戦略会議において研修会の内容やICT機器の活用方法、Wi-Fiへの接続方法等について検討した。次年度は円滑に運用できるよう課題を整理・改善するとともに、効果的な授業活用について一層検討を進める必要がある。 ・ 本年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、教員の働き方に緩急があった。特に、9月の臨時休校の後の2学期については、生徒の学習保障や学習意欲低下へのサポート、メンタル面、生活習慣、人間関係への対応が 			

多かった。

・学校信頼向上委員会にて職員アンケートを実施した結果、生徒や職員間の声掛けなど対話力向上の必要性が明らかになったため、12月に「対話力向上研修会」を実施した。職員アンケートでは高評価だったため、今後も機会を持っていきたい。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- ・地域をテーマとした課題研究で、一つの課題を継続して研究する取組を試みて欲しい。また、「提案」にとどまらず、地域で「実践・具現化」でき、「成果物」と「達成感」を得ることを期待する。
- ・教員同士がいつでも授業を互見できる環境の推進を期待する。
- ・地域のサポーターによる学校支援地域本部のような、PTA等の代わりに学校を支援する取組が高校にもあってよいのではないか。
- ・地域の方や小中学生に、現在の西高の素晴らしさが伝わっていないとよく感じる。
- ・HP等の情報発信について、学校で行われていることが保護者や中学生にうまく伝わっていないと感じる。
- ・以前に比べ、自転車通学のマナーはよくなった。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

- ・次年度から導入される一人一台端末を授業や教育活動に生かす。
- ・「生徒につけたい力」を学校全体で共有し、その力をつけるため、1、2年生の総合的な探究の時間及び「津西SPP」等の探究活動を充実する。
- ・計画的な学習指導、進路指導に引き続き取り組み、難関大学の合格者増を図るとともに、個々の生徒の学力の伸長と進路実現を支援する。
- ・全教育活動をとおして「命を大切に教育」を充実し、一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進する。
- ・交通ルールやマナーについて講習を充実する。学年集会等を通じてその大切さを伝える。

学校運営についての改善策

- ・ICT機器の活用については、研修などにより教員のスキルアップを図るとともに、授業での活用方法を研究する。また、校内のICT機器の活用推進のため、校内組織を充実する。
- ・総勤務時間の縮減を実現するため、業務改善や業務内容の精選に学校全体で取り組むとともに、SSSなどの外部人材の活用を継続する。